令和５年度 事業報告

岡山理科大学専門学校

建築と動物そして水生生物のスペシャリストを養成。学生、保護者、学校、地域、関連業界の皆様に支持され、愛される学校を目指します。

令和５年５月８日からコロナウィルス感染症の感染症法上の位置付けが５類感染症になり、徐々に従来の学外行事も復活してきました。年度末の卒業式を学生・保護者出席のもと、４年ぶりに対面で実施できました。一方で、学校祭や希望者による海外研修など中止せざるをえない行事もいくつかあり、完全にコロナ前に戻ったとは言えない状況が続いています。

外部評価、教育改善の取り組みとしてコロナ禍でも続けてきた学校関係者評価委員会および教育課程編成委員会を今年度も開催し、外部からの意見を積極的に取り入れてきました。教職員全員による学科の魅力度アップ、精力的な広報活動によって、５学科全体の入学定員を充足することができ、健全な財務状況を維持することができました。今後ともより一層社会のニーズに対応した質の高い教育を目指していきます。

＜重点施策＞

１．業界団体の意見や要望に応え得る人材育成のために、職業人育成に主眼を置き、教育内容の改善を行います。

２．「職業実践専門課程」を有する学校として、業界団体等が行う技術研修への教員派遣を積極的に進め、教員の資質向上に努めます。

３．より実効性のある教育体制を構築するために、教育組織の改善に取り組みます。

４．急速に変遷し、グローバル化する社会のニーズを真摯に受け入れ、本校の特徴を生かして柔軟に対応して行きます。

５．本校のブランディング効果を上げるため、全教職員が協力して学校教育に当たります。

岡山理科大学専門学校　校長　梶浦　文夫

Ⅰ．教育について

１．教育に関する中期目標

中期計画		令和５年度　事業計画	令和５年度　事業報告	評価
（１）１年次中に「キャリア教育」を体系化する。	①入学直後から職業人意識を養成する「キャリアデザイン」の履修を図る。	D-1　以前は就職課の教員による授業であった「キャリアデザイン」を、令和４年度より各学科教員が担当することになった。目的は仕事を通じて実現したい将来像やそのプロセスを明確化し、自分の能力を活かすためのキャリア形成支援から就職活動支援までを行うことを目指すことであるが、それぞれの学科の個性が出せる授業とする。	「キャリアデザイン」の授業をそれまでの就職担当教員でなく学科の教員が担当する取り組みを円滑に実施することができた。しかし、学科独自の個性的な授業ができた一方で、就職活動に必要な共通の知識やスキルは就職担当の教員に任せた方が良いのではという意見もあった。来年度に向けて、それぞれの職業について熟知している学科の専門教員と就職活動全般を熟知している就職担当教員が、バランスよく協力して指導できるしくみを検討する必要がある。	B
	②全学生に「キャリアマナー」の向上を図るとともに、「キャリアデザイン」の履修を体系化する。	D-2　全学科の学生に「キャリアデザイン」を履修させる。また、特に接客が重要と考えられる学科の学生に「ビジネスマナー」を履修させ、関係資格であるサービス接遇検定の合格率向上を目指す。	全学科の学生に「キャリアデザイン」の授業を受講させることができた。また、特に接客が必要な動物系学科の学生に「ビジネスマナー」を履修させることができた。合格率の向上は今後とも取り組んでいかなければならない。	A
（２）学科毎に職業に直結した専門知識・技術・技能を持った人材育成のために、教育課程編成の再構築を行う。	①職能団体の要請に伴い、カリキュラムを弾力的に編成し、逐次教育内容の見直しを行う。	D-3　①　年２回の教育課程編成委員会を通して企業から得た情報をもとに、実践的でかつ入学生が学びたいと思えるカリキュラムの構築を行う。 ②　社会に出て役立つ資格を少しでも多く取得できるよう、新たな資格試験を検討する。	①　年２回の教育課程編成委員会を実施できた。また、それに基づいてカリキュラムの改善を進めている。 ②　社会に出て役立つ資格として、新たに「動物診療助手」の資格を取得できるよう準備を進めている。	A A
	②事業現場の中核を担える人材を養成するために、学生参加型の授業展開を推進する。	D-4　「設計製図」の授業にて、学生に与える課題の一つに学生が参加できる一般公募型の設計コンペに出す作品を採用し、実践的かつ実力を発揮できるような授業展開を行う。	今年度は設計コンペと同じ内容の課題を実施できなかった。来年度に向けて早い時期からの計画を立てる予定である。	D

中期計画		令和５年度　事業計画	令和５年度　事業報告	評価
	③多様な校外実習と現場体験により、社会のニーズを理解するとともに研修施設の開拓に努める。	D-5　①　新型コロナウィルス感染症対策の基本指針に基づき、各学科で校外実習を再開する。 ②　「古民家再生論」では、倉敷や児島、早島などの街並みや再生現場への見学を行い、今、国内で問題となっている空き家問題の解消策を授業に取り入れる。	①　５月８日からコロナ感染症対策が変更され、可能なものから校外実習を再開できた。 ②　校外実習が可能となったことによって、現場への見学等が可能となり、様々な問題の解消策を授業に取り入れることができた。	A
（３）建築学科専攻科と動物系総合学科研究科の意義を再考し、人材目標に合ったカリキュラム編成に重点を置く。	①専攻科と研究科はワンランクレベルの高い学科として位置付ける。	D-6　①　「建築学科専攻科」、「動物系総合学科研究科」のカリキュラムを再度見直す。 ②　地域が要請する授業を編成する。建築学科専攻科では、来年度に向けて地域が抱える問題と課題（人口減少、防災、空き家、福祉の充実）を解決、推進するための地域創生まちづくり活動のマネージメントを行う人材を養成する「まちづくりファシリテーター養成講座」の開催を準備する。	①　建築専攻科では、設計製図の時間数を実態に合わせて変更するなどカリキュラムを見直した。また、動物系総合学科研究科では時間数の変更および新規科目追加など、カリキュラムを見直した。 ②　「まちづくりファシリテーター養成講座」が開講され、福岡県、兵庫県の専門学校と本校とのリモート研究発表会が開催された。学生たちは積極的に参加し、他校との交流も行われた。	B A
（４）入学者確保のための新たな学費軽減策を検討する。	①学科毎の受験者数に応じて、奨学生枠を付与する。	D-7　入試制度での免除枠の充実を検討する。	現在検討中である。	D
	②受験者の多い学校との連携を強化する。	D-8　①　高等学校の研究発表会等に積極的に参加し、指導・助言をする。 ②　学内の卒業研究発表会やシンポジウムに高校生を招く。 ③　共同でイベント活動を行う。	①　コロナ感染症対策の制限緩和後も､1 学科に複数名の感染者が出るような状況があったため、高校との研究発表会などのイベントは実施できていない ②　高校生を招く件についても実施できていない。 ③　共同のイベント開催も実施できていない。	D D D

中期計画		令和５年度　事業計画	令和５年度　事業報告	評価
（５）授業アンケートの完全実施と集計・分析による授業評価を実施。教育の質の高位平準化のための教員研修の促進。	①学習者目線での授業展開を目指し、アンケート結果によって、授業評価を行い、改善策を指導する。	D-9 ①　授業アンケートを Web にて円滑に行えるようにする。学生達にも全科目へ回答協力するよう指導する。 ②　それぞれの教員に必要な研修に参加させる。	①　Web での授業アンケートは実施できている。但し、紙のアンケートに比べて回答率が低い点が未だ解消されていない。 ②　教員が最も参加しやすいのは学園および岡山理科大学で開催される研修会であるが、教員の授業時間と重なることが多くほとんど参加できていない。	C D
（６）学科毎の目標資格取得率を全校で共有する。	①各種資格取得率を格段に上げる。資格取得困難学生を重点的にサポートする。	D-10 ①　授業の中で、試験日に照準を合わせて練習問題等実施する。 ②　学生が資格の重要性を認識できるよう早い時期にガイダンスを行い、流動的な社会では資格が必要不可欠であることを理解させたうえで資格試験に臨ませる。また、学内での講習会だけでなく、外部の通信教育なども積極的に活用する取組みを行い、学生の学習しやすい環境を整備する。	①　愛玩動物看護師国家試験など国家試験対策は授業の空き時間を活用して行うようになってきた。今後は過去の問題の収集、対策などを学園全体(岡山理科大学、倉敷芸術科学大学、千葉科学大学、本校)で連携協力して行っていくことが必要である。 ②　建築学科、愛玩動物看護学科の国家資格は勿論のこと、他の学科の資格に関しても資格取得の重要性を入学時から理解させる必要があるが、まだ十分とは言えない。	B C
（７）関連企業・団体との連携による教育課程編成。	①職業実践専門課程の認定要件である「教育課程編成委員会」の年２回の開催を以て、関係業界が求める人材養成に努める。	D-11 ①　学校関係者評価委員会を毎年実施する。 ②　適切な教育課程編成委員による委員会を年２回開催する。	①　対面での学校関係者評価委員会を実施できた。 ②　職業実践専門課程の認定を受けている 4 学科全てで年 2 回実施できた。	A A

Ⅱ．研究・創作について

１．研究・創作に関する中期目標

中期計画		令和５年度　事業計画	令和５年度　事業報告	評価
（１）研究の重点化やブランド力の向上を図る。	①各学科の教育目標と知的･物的資源を各業界の問題解決に提案していく。	D-12 ① トリミング学科では、シニア犬に対するスピードトリミング、膝や腰の弱い立姿が困難な犬に対する美容技術を修得させる。	① 昨年度と同様に、高齢犬、肢の悪い犬に対するスピードトリミングの指導と実習を行った。	A
		② アクアリウム学科では、授業と並行してクマノミ以外の観賞魚の量産・販売を計画する。また関連団体に参加し、国内希少野生動物種に指定されている淡水魚の種の保存のための継代飼育、新たな水槽のろ過システムの研究開発等、環境問題への取組みを行う。	② 予備試験的に、カエルアンコウ、ニザダイ類などの飼育。繁殖に取り組んでいる。	B
		③ 地域社会の問題点を調査し、問題解決への提案を行う。	③ 今年度は実施できていない	D
（２）附帯事業における利潤を追求する。	①各資格取得の専門講座を充実させる。	D-13 ① 各資格取得の為の専門講座を一層充実させる。 ② 建築士対策講座においては､外部からの受講生を多く獲得できるよう､更に魅力的な講座になるよう追及していく。	① 愛玩動物看護学科では岡山理科大学獣医学部の教員による講習会を行った。 ② 建築学科では対策講座に外部からの受講生を受け入れている。	A A

Ⅲ．学生支援について

１．学生支援に関する中期目標

中期計画		令和５年度　事業計画	令和５年度　事業報告	評価
（１）楽しい学校を先ず学生に印象づけ、欠席や中退を無くす魅力的な学生生活を全校で創る。	①入学生と在校生の交流の場を増やす取り組みを行う。	D-14 ① 学校内で球技大会や学園祭等、学年、学科の枠を超えて協働する。	① 昨年度に続き全学科参加でボーリング大会を開催した。全学科同時開催ができなかったため、学校全体での学生同士の親睦はできなかった。	B
		② 学友会の充実を図る。	② 新たに爬虫類クラブが誕生した。	A
		③ 県内または近県で交流できるイベントを検討する。	③ コロナ禍のイベント自粛の状態からまだ完全には戻っていないため、イベントの計画・実施はできていない。	D

中期計画		令和５年度　事業計画		令和５年度　事業報告	評価
（２）キャリア形成支援を行う。	①正課のキャリア教育と正課外のガイダンスや講演の接続を図る。	D-15	① 正課の授業の中でキャリア教育に繋がる現場の実際の仕事について説明するように努める。 ② 学外から教員を招聘して、学生の更なるアイデアを引き出すヒントとなるような特色のある授業を行う。 ③ 正課外の多様な専門職の講演により感性の充実を図る。	① これまで１名の教員が担当していたキャリアデザインを各学科の専門の教員が担当するようになり、学科の目指す職業について詳しく学べるようになった。 ② コロナ禍の自粛の状態からまだ完全には戻っていないため、外部教員招聘の計画・実施はできていない。 ③ ②と同様の理由で、実施できていない。	A D D
	②社会で活躍する卒業生の講演を企画する。	D-16	研究発表会等で本校卒業生による特別講演を実施し、更なる学生の学習意欲向上につなげる。	卒業生ではないが、アクアリウム学科が卒業研究発表会時に外部講師を招聘し、講演会を開催した。他学科は実施できていない。	C
	③全校一斉の挨拶週間、ゴミ拾い、ボランティアデーを設けることで、学生一人一人にキャリア形成の重要性を認識させる。	D-17	学生のコミュニケーション能力の重要性を認識させるためや活動意欲をあげるため、ボランティア活動、交流活動に積極的に参加させる。	動物愛護センター、動物愛護財団主催のフェスティバルへ学生・教員の派遣を行った。また、これまでの本校学生による動物愛護活動への感謝として岡山県より感謝状が贈られた。また池田動物園にて開催された岡山市の動物愛護フェスティバルにも参加した。	A
（３）心身に問題を抱えた学生の学生生活をサポートする。	①教育相談室と各チューターの懇談の場を設け、学生の悩み解決に相互協力体制を敷く。	D-18	① 各学科にて、それぞれの時期で個別相談を開催したり、時には保護者を呼んで三者面談を行ったり、学生一人ひとりと向き合う時間を設ける。 ② 専門の学園のカウンセラーや外部の組織との協力体制を整備し、学生をサポートしていく。 ③ 教員は、普段の生活から学生の態度や行動を気にかけ、気になる学生がいれば他の学生に配慮しつつ声かけを行う。	① 各学科の全学生に対して、主に就職を中心に個別面談を行った。 ② 学園の専門のカウンセラーによる相談やカウンセリングは実施できる体制を整えている。 ③ 各教員が普段から学生の態度や行動に気をかけるように心がけている。	A A A

中期計画		令和５年度　事業計画	令和５年度　事業報告	評価
	②発達障がい者に対する接し方を学ぶ外部講師招聘による教員研修を増やす。	D-19 ① 学園内で実施される研修会を積極的に利用する。 ② 適切な外部講師招聘による教員研修を実施する。	① 今年度は該当する研修会が開催されず、参加できなかった。 ② 今年度は実施できなかった。	D D
	③身体障がい者の校内設備利用の利便性を上げるための教職員研修を増やす。	D-20 校内設備を改善し、利便性の向上を図るとともに専門の外部講師招聘による教員研修を実施する。	構内設備の改善は行っているが、外部講師招聘による教員研修は実施できなかった。	C
（４）正課外活動についての支援。	①独自のクラブ活動や団体参加のクラブ活動の参加に努める。	D-21 今あるクラブ活動についての活動案内の場を適宜設ける。	主に入学時のオリエンテーション時にクラブ活動の紹介を行っている。	B
（５）学生の修学を促進する取組を行う。	①修学困難な学生を支援するサポート体制を確立する。	D-22 経済的困難による退学者が出ないよう、在学生に対して国の修学支援制度の周知、チューターとのコミュニケーション強化などを定期的に行う。	前期、後期のオリエンテーション時に説明をしている。また、学生からの相談があれば、丁寧に対応するようにしている。	A
	②修学支援体制が充実している学校として知名度を上げる。	D-23 授業料等の修学支援に関して、本校では高等教育修学支援制度、教育訓練給付金制度、日本学生支援機構の貸与奨学金等の支援制度が整備されていることを、高校訪問時やオープンキャンパス時に教員や保護者に対して説明を行う。	十分に行っている。	A

Ⅳ．国際化について

１．国際化に関する中期目標

中期計画		令和５年度　事業計画	令和５年度　事業報告	評価
（１）留学生の受け入れを行う。	①クラスのコミュニケーションを推進する。	D-24 クラス全体で生活習慣、言語などの相違を理解し、コミュニケーションを図る。	現在動物飼育トレーニング学科の 1 年生に１名の留学生が在籍している。関係教員およびクラスの学生とのコミュニケーションはよくとれている。	A

中期計画		令和５年度　事業計画	令和５年度　事業報告	評価
	②一人一人の学生に真摯に向き合う。	D-25　留学生の出身国を理解し、意志疎通を図れるよう教員研修を実施する。	現在在籍している留学生は、中国出身１名である。留学生の出身国の中でも最も理解されている国の一つであるが、教員全体を対象にした研修は行っていない。	D

Ⅴ．地域社会連携・貢献について

１．地域社会連携・貢献に関する中期目標

中期計画		令和５年度　事業計画	令和５年度　事業報告	評価
（１）地域社会交友を促進する。	①地域のボランティアに積極的に参加する。	D-26　① ボランティア活動を通して積極的に地域の人とコミュニケーションをとる。 ② 各自治体が開催するフェスティバル等に積極的に参加する。今年度は、動物愛護フェスティバル、動物愛護キャンペーン等の参加を予定している。	① コロナ感染症の制限は緩和されたが、実際はクラス内に複数の感染者が出る時期があり、外部との積極的なコミュニケーションは行っていない。 ② 岡山県、岡山市が実施するフェスティバル等に積極的に参加できた。	D A
（２）関連機関・団体との連携・協力を行う。	①常に時代のニーズに合った職業人を養成する為、情報収集に努める。	D-27　① 職業安定所、自治体等が開催する企業説明会に積極的に参加し、情報収集に努める。 ② 職業実践専門課程外部委員及び学校評価委員からの情報収集に努める。 ③ 卒業生による特別講演や、特別授業を実施する。	① 企業説明会に参加し、情報収集を行った。 ② 十分に情報収集を行えている。 ③ 今年度は実施できなかった。	A A D

Ⅵ. 組織・運営について

１．組織・運営に関する中期目標

中期計画		令和５年度　事業計画	令和５年度　事業報告	評価
（１）学校運営・教育方針の周知徹底を図り、全教職員の共有化できる体制づくりを策定する。	①「建学の理念」「専門学校の使命」を捉えた「学校運営」「教育方針」を協議し、流動的な社会情勢に呼応できる学校運営をする。	D-28 ① 教員資質の向上のため、外部団体、研究会等への積極的参加を推進する。 ② 常に組織の改革を実践する。 ③ 問題点があれば早急に改善点を話し合う会議体制を構築する。	① 愛玩動物看護学科教員が今治で開催された動物看護学会および大阪で開催された動物臨床医学会に参加することができた。 ② 動物飼育トレーニング学科の体制が整いつつあり、カリキュラムも改善された。 ③ 運営会議、職員会議を通じて問題点を話し合った。	B B A
	②校長を中心とした意思決定会議を明確にし、各組織の長の権限と責任を明確にする。	D-29 ① 新年度最初に作成した組織表に基づいて、運営を実施する。 ② 全教職員が協力し合える体制を強化する。	① 組織表に基づいて運営できた。 ② 今年度は 4 年ぶりに卒業式を全教職員で協力して実施することができた。	A B
（２）教員の能力開発・評価を行う。	①教員自己点検シートにより、主体的な能力向上を図り、自己目標とその達成度を評価する。	D-30 ① 教員自己点検シートにより、自己目標と達成度を評価する。 ② 教員能力向上につなげるため、校長は点検シートのフィードバックを行う。	① 事務職員の評価制度と比較して、教員評価は授業アンケートのみである。今後は教員評価についても検討していく必要がある。 ② 授業アンケートに基づいて、学生からの評価が低い教員がいれば、聞き取り、改善指導を行うようにしている。	C A
	②関係機関と協力のための教員派遣を推進する。	D-31 自己の視野を広げ、柔軟な思考力習得のため、自治体等関係機関の事業に積極的に協力する。	主に岡山県、岡山市の動物愛護事業に学生・教職員が積極的に関わっている。	A
（３）教員の人材育成システムを構築する。	①職能団体より情報収集を行い研修先の開拓を図る。	D-32 外部団体のイベント、研究会等に積極的に参加し、学生の研修先の開拓に努める。	学会、研究会、合同発表会、フェスティバルなどに可能な限り参加している。	B
	②教員研修規約に則り、年間教員研修経費の予算を立てて教員派遣を推進する。	D-33 新任教員、中堅教職員を中心として各種研修会に積極的に参加する。	十分に参加できていない。	D

Ⅶ. 内部質保証について

１．内部質保証に関する中期目標

中期計画		令和５年度　事業計画	令和５年度　事業報告	評価
（１）内部質保証システムを確立する。	①機関評価並びに分野別評価の実施のため、幹部職員を研修に派遣し、学校評価に対応する。	D-34 ① 全学科を文部科学省職業実践専門課程学科として、適切な外部編成委員及び学校関係者評価委員による各種会議を組織する。 ② 関係外部委員による倫理委員会を開催する。	① 職業実践専門課程認定の 4 学科で教育課程編成委員会を年 2 回実施できた。また、学校関係者評価委員会を実施できた。 ② 年１回の倫理委員会を開催できた。	A A
	②学校自己評価に加え、学校関係者評価を行い、結果の情報公開を履行する。	D-35 学校自己評価及び学校関係者評価を情報公開する。	情報公開が遅れているので鋭意準備を進めている。	D
	③運営側と各下部組織の意思の疎通を図る。	D-36 ① 学校運営会議を定期開催し、遅滞なく結果を学内組織に周知し、組織の意志疎通を図る。 ② 「報告」「連絡」「相談」体制を作り、学内組織を強化する。	① 学校運営会議は必要に応じて開催している。その結果は朝礼、職員会議で周知している。 ② これまでも体制づくりを心掛けているが、十分とは言えない。	A C
（２）情報の収集と分析を行う。	①学会、研究会に積極的に参加する。	D-37 最新技術や機器、情報をいち早くカリキュラムに反映させる為、積極的に各種学会、研究会に参加する。	専門学校であるため学会参加は少ないが必要な情報は様々な経路から収集し、カリキュラムに反映させている。	A
	②自治体、団体の会議に参加する。	D-38 自治体主催の意見交換会や団体の会議に積極的に参加し、最新の情報を収集する。	十分には参加できていない。	D
	③職業実践専門課程での会議を積極的に活用する。	D-39 カリキュラムの見直しや学生の就職先のバックアップ等、社会のニーズを満たす職業実践専門課程の会議を定期的に実施する。	カリキュラムの見直しは常に行っているが、職業実践専門課程の定期的な会議開催は実施できていない。	C

Ⅷ. 教育研究環境について

１．教育研究環境に関する中期目標

中期計画		令和５年度　事業計画	令和５年度　事業報告	評価
（１）教育環境のチェックにより、安全で快適な教育環境を目指す。	①既存建物の耐震診断を実施し、年次計画を立てて、改修･補修工事等の実施を実現する。	D-40　開校時からの建物の建て替えに向けて、年次計画を立てる。	安全に配慮し、校舎の修繕を適宜行っていくようにしている。建物の全面的な建て替えは財務状況を見ながら検討していく。	B
	②施設･設備、備品の老朽化にともない、最新の設備の導入の整備計画を策定して逐次実施する。	D-41　設備・備品の点検を行い、最新設備導入計画を策定する。	現時点で完全には完成していない教務システムの強化を行い、入学前から卒業後までの学生の情報を一元的に扱えるシステムを構築できるように立案を行っている。また、老朽化した設備を適宜更新し、より良い学習環境の実現を進めている。	A
	③校内禁煙策を協議し、快適でクリーンな校内環境を目指す。	D-42　校内で、喫煙者、非喫煙者の両方の立場を尊重するため全面的な禁煙ではなく、分煙という形で双方ともに快適な学校生活が送れるようスペースの住み分けを行う。	全教職員による意見が統一され、次年度より校内全面禁煙を実施することが決まった。	A
	④ＤＸ推進に取り組み、快適なＩＴ環境を目指す。	D-43　オンライン授業を行う為のインターネット回線容量の増設や学内ネットワークシステムの更新など、ＤＸの基盤となるＩＴ環境の整備計画を立てる。	必要に応じて回線容量を増加させる計画を立案して実施している。	A
（２）安全衛生管理体制を構築する。	①教職員･学生の安全意識の啓蒙に努め、防災委員会の中に環境アセスメントを導入し、安全衛生管理体制の強化を目指す。	D-44　①　防災訓練の数を増やし、次回への改善点を話し合い、安全に学生を避難させる管理体制を構築する。 ②　防災委員会を年に１回以上開催する。	①　学生全員による防災・避難訓練を実施し評価を行った。 ②　防災訓練の準備のための防災委員会を開催した。	A A

中期計画		令和５年度　事業計画	令和５年度　事業報告	評価
	②ユニバーサルデザインの追求により、全学生及び外来者が利用しやすい施設整備を推進する。	D-45　② 学生や外部利用者が負担に感じることなく使用できるような施設整備を推進する。 ③ 関係外部団体の利用の推進を図る。	① 校舎が斜面に４棟建設されており、階段で接続されている。エレベーターや空中廊下を設置する必要があるが、実施できていない。 ② 今年度は実施できなかったが、次年度に動物病院施設を活用した獣医・動物看護系ワークショップの校内開催を計画している。	D C

Ⅸ．運営・財政基盤について

１．運営・財政基盤に関する中期目標

中期計画		令和５年度　事業計画	令和５年度　事業報告	評価
（１）教育の基盤は安定した財務状況に起因することを校内統一見解として、各自が財務安定化に向けて目標を持つ。	①人件費率の安定化（60%）を図る。	D-46　60%に抑えた人件費率を維持しつつ、適切な教職員配置に努める。	計画通り 60%に抑えた人件費率を維持できており、適切な教職員配置を維持している。	A
	②適切な教育研究費になるように努め、在校生数に比例した経費の予算組を立てる。	D-47　安定した入学者を確保し、学校運営・財政基盤を確立させ、適切な教育研究費にする。	特に、愛玩動物看護学科及び動物飼育トレーニング学科については安定した入学者を確保し、学校運営・財政基盤を確立させ、適切な教育研究費にすることができている。	A
	③収支の改善を実施する。	D-48　必要なもの、不要なものを見分け、適切な予算執行に努める。	この２～３年間学生数は増えており、必要なもの、不要なものを見分け、適切な予算執行に努めている。	A
（２）広報・ブランディング戦略	①地域の自治体、団体の動向を的確に把握する。	D-49　地域の自治体や団体のイベントに参加し、連携交流を行うことで信頼関係を結び、広報活動につなげる。	地域の自治体や団体のイベントに参加し、連携交流を行うことで信頼関係を築いて広報活動に繋げ、高校などで行うイベントにも参加した。	A

主な行事	
4月 6日	入学式
4月 7日、10日	オリエンテーション
4月 11日	前期授業開始
6月 14日	球技大会
8月 1日～8月 7日	前期末試験
8月 8日～9月 12日	夏季休暇
10月 2日	後期授業開始（昼間部は10月3日から）
10月 28日	RiSEN祭
12月 22日～1月 9日	冬季休暇
1月 29日～2月 2日	後期末試験
3月 20日	卒業式

学生数・教職員数

■在籍学生数

（令和5年5月1日現在）

課程・学科名		入学定員	入学者数	収容定員	在学者数
工業専門課程	建築学科(昼間部)	40	39	80	87
	建築学科(夜間部)	20	8	40	27
	福祉住環境デザイン学科	(募集停止)	―	―	―
	計	**60**	**47**	**120**	**114**
商業実務専門課程	映像情報学科	(募集停止)	―	―	―
	計	(募集停止)	**0**	**0**	**0**
文化・教養専門課程	愛玩動物看護学科	40	68	80	124
	高度看護医療・臨床検査ｺｰｽ(3年制)	(募集停止)	―	30	21
	トリミング学科	40	31	80	60
	動物飼育トレーニング学科	40	44	80	81
	アクアリウム学科	40	33	80	66
	計	**160**	**176**	**350**	**352**
合計		**220**	**223**	**470**	**466**
専攻科研究科	建築学科専攻科	15	5	15	5
	動物系総合学科研究科	15	13	15	13

（単位：人）

■卒業者数等一覧

（令和5年度）

区分	修了者・卒業者	満期退学	就職希望者 A	就職者 B	就職率 B/A	進学者	退学者・除籍者	休学者	留年者 ※
岡山理科大学専門学校	201	―	144	139	97%	32	24	2	1

※修業年限を超えて在籍している学生数（令和6年4月1日現在）

主な就職先	YKK AP(株)岡山支店，笠岡市役所，中国建設工業(株)，倉敷動物医療センター・アイビー動物クリニック，けいこくの森動物病院，さくら通り動物病院，ドッグサロン Pure 連島本店・妹尾店，(株)なかやま牧場，ノーザンファーム，(特非)兵庫介助犬協会，(株)ひごペットフレンドリー，秀長水産(株)，(公社)新潟県水産振興協会

■教職員数

（令和5年5月1日現在）

校長	副校長	教員	教員　計	事務職員
1		10	11	8

（単位：人）

財務関係

■事業活動収支

（単位：千円）

科目			令和５年度予算額	令和５年度決算額
教育活動収支	収入	学生生徒等納付金	403,083	407,220
		経常費等補助金	32,306	33,130
		その他収入	15,250	6,791
		計	450,639	447,141
	支出	人件費	197,774	184,856
		教育研究経費	114,895	109,866
		管理経費	35,283	29,623
		その他支出	0	0
		計	347,952	324,345
教育活動収支差額			102,687	122,796
教活外	収	受取利息等	10	1
	支	借入金利息等	113	113
教育活動収支差額			△ 103	△ 112
経常収支差額			102,584	122,684
特別	収	資産売却差額等	0	0
	支	資産処分差額等	0	2
特別収支差額			0	△ 2

基本金組入前収支差額	102,584	122,682
基本金組入額合計	△ 23,903	△ 18,775
当年度収支差額	78,681	103,907

■財務改善に向けた取組

今年度について、研究科専攻科を除いた学校全体の入学定員 220 名を充足している。また、経常収支差額についても目標を達成することができている。今後は、入学者増に伴い、実習場の拡充や整備が必要になる。

1. 収入増加対策

退学者の増加が、収入減少の最大な要因の為、入学してきた一人ひとりの学生に対して、しっかりサポートを行うよう努める。

2. 支出軽減対策

教職員が経費（教育研究費・管理経費）の無駄をなくす意識で業務に取り組む。

■施設設備整備報告（抜粋）

入学者増加に伴い、実習場拡充のため動物飼育施設増や雨天時も実施可能な実習場施設の整備、また、学生の利用環境を整えるための工事を実施した。

主な施設関係　（単位：千円）

事業名	金額
ドッグラン人工芝整備	1,785
駐輪場整備	1,738

主な装置・設備関係　（単位：千円）

事業名	金額
ドッグラン内飼育ハウス×２棟	4,380